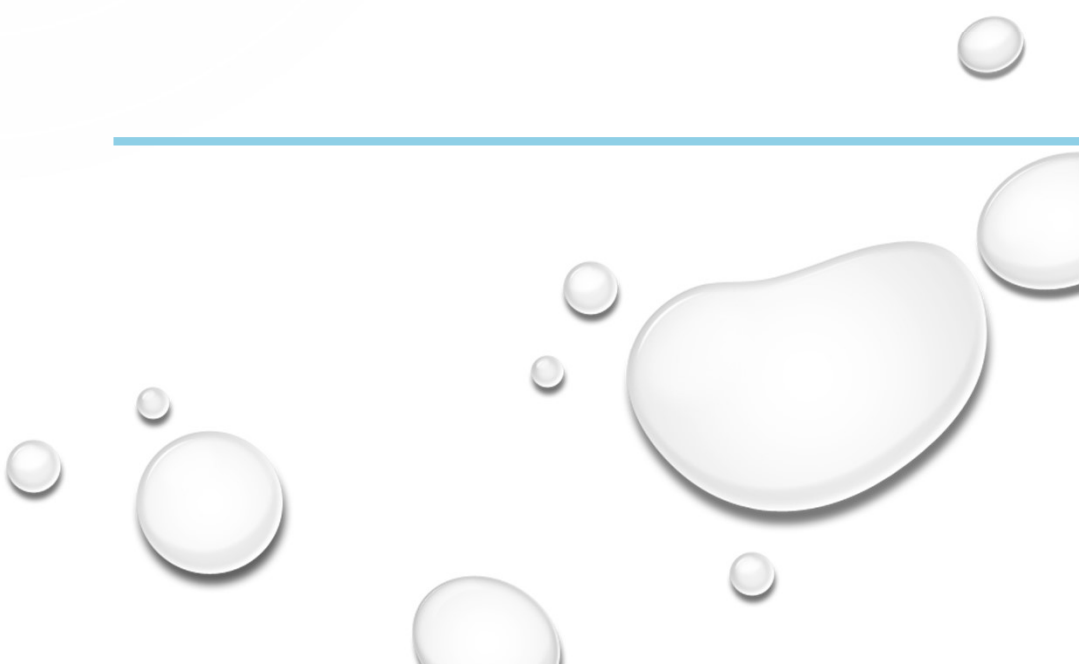




起業家精神の分析フレームワークとその変遷 —起業家からエコシステムへ—

BABA, SHINICHI

馬場晋一（長崎県立大学）



個人としての企業家（古典の解釈）

提唱者	出版年	定義
カンティヨン	1725	先見の明を持ち、危険（リスク）を進んで引き受け、利潤を生み出すのに必要な行為をする者
J.B セイ	1803	他者を結び付けて生産的な組織体を形成する行為者
C.メンガー	1871	予見に基づいて資源を有用な財に変換する変化の担い手
A.マーシャル	1890	多様な生産要素を需要に適合させていくうえで問題を解決し、効用を作り出す主体
J.A シュンペーター	1912	革新者、新結合を遂行する企業者
E. ペンローズ	1959	企業成長のための有用な資本の使用、投資プログラムの実行者
I.M カーズナー	1973	新しい価値のある目的および潜在的に有用で入手可能資源に対する機敏性をもつ個人
P.F ドラッカー	1985	変化を探し、変化に対応し、変化を機会として利用する者

企業家はどこに行ったか

市場均衡の担い手

- 古典における経済学の企業家の分析は、企業内部の資源配分に主眼を置く狭義の経営者のものとは異なる。マーシャル的な定義によれば、「企業家」は、大陸型のアントレプレヌールの代わる意味合いが込められ、市場の資源配分の行為者としての位置づけが「事業経営(マネジメント)」の用語の中に織り込まれている(1890)。市場の均衡に基づく新古典派経済学になると、企業家精神はさらに無視されるものになる。新古典派の理論の枠組みでは、企業家は単に最も効率的な生産機能を選択し、材料が常に組み立てられているかどうかをチェックするだけであると考えられている。現代の経済学では、企業家精神を「残余の部分」、つまり生産性の向上を説明している。経済学者が通常用いる方法で現実には測定できないものとして認識されている。
- 準レント獲得の機能
- 企業家のはっきりとした機能があり、この機能の行使で確固たる収益が上げられるとするとき、筆者は企業家の機能としての利潤追求の機能、価格シグナルの受けてとして、市場の参入、退出を決定する機能を考えている。

DAVID BURNETT (2000) にみる 市場均衡とアントレプレナーシップ

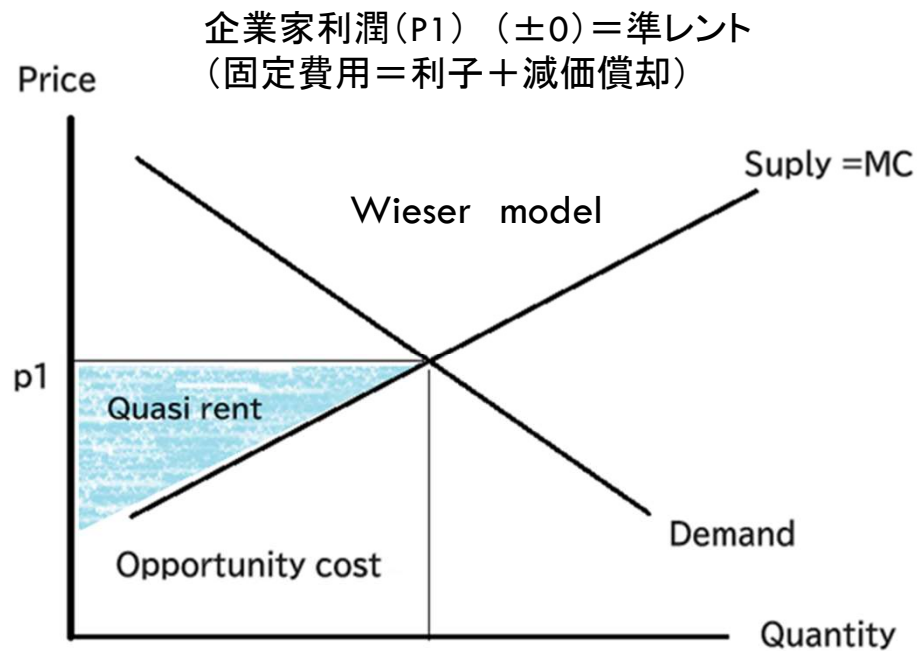
- OVER THE NEXT CENTURY, BRITISH ECONOMISTS SUCH AS ADAM SMITH, DAVID RICARDO, AND JOHN STUART MILL BRIEFLY TOUCHED ON THE CONCEPT OF ENTREPRENEURSHIP, THOUGH THEY REFERRED TO IT UNDER THE BROAD ENGLISH TERM OF "BUSINESS MANAGEMENT."
- アダム・スミス、デビッド・リカード、ジョン・スチュアート・ミルなどのイギリスの経済学者は、起業家精神の概念に簡単に触れたものの、彼らはそれを「ビジネスマネジメント」という広義の英語用語で呼んでいました。
- (THE SUPPLY OF ENTREPRENEURSHIP AND ECONOMIC DEVELOPMENT, DAVID BURNETT, 2000)
- WHEREAS THE WRITINGS OF SMITH AND RICARDO SUGGEST THAT THEY LIKELY UNDERVALUED THE IMPORTANCE OF ENTREPRENEURSHIP, MILL GOES OUT OF HIS WAY TO STRESS THE SIGNIFICANCE OF ENTREPRENEURSHIP FOR ECONOMIC GROWTH. IN HIS WRITINGS, MILL CLAIMS THAT ENTREPRENEURSHIP REQUIRES "NO ORDINARY SKILL," AND HE LAMENTS THE FACT THAT THERE IS NO GOOD ENGLISH EQUIVALENT WORD TO ENCOMPASS THE SPECIFIC MEANING OF THE FRENCH TERM ENTREPRENEUR (SCHUMPETER, 1951).

スミスとリカードは、起業家精神の重要性を過小評価している可能性があることを示唆しているのに対し、ミルは経済成長における起業家精神の重要性を強調している。ミルは著書の中で、起業家精神は「それ自体が個人にもともとある能力」ではないものと主張し、フランス語のENTREPRENEURの意味を包括する適切な英語に相当する言葉がないと嘆いた (SCHUMPETER, 1951)。

機会費用と利潤(準レント)

OPPORTUNITY COST / QUASI RENT AT THE PRICE

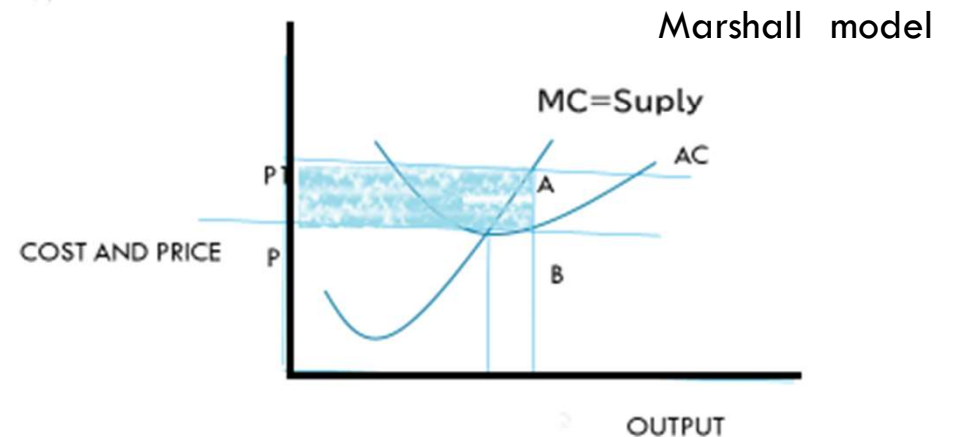
機会費用(OPPORTUNITY COST) との関係



準レント(QUASI RENT)の所在

QUASI RENT

企業家利潤 $P_1 (+)$ = 準レント > 固定費用



Klein, Crawford and Alchian (1978)、亀川雅人(1993)より筆者によるまとめ

個人としての企業家から組織へ E.ペンローズ(企業成長の理論)

- クラシカルな経済学と異なり「企業の内側」に成長を求める。

企業のリスク負担を、資本使用の対価としてでなく、再投資のための投資プログラムと定義

- 「利益動機」はそれが個人に適用される場合、所得や富の増加は企業の利益となる限り、企業の動機となる。
- → 私は時として企業そのものに「法人」としてでなく、比喩的に「経済人」として人間的な属性を与えるが、このことを許容してほしい。このようなフィクションによって、企業の管理者や経営者個人でなく、「企業」があれこれの活動をするものと語ることができるし、また企業とそれを動かす人々との間に区別の必要のない場合の表現が可能になる。『企業成長の理論第3版』

P.55

H.ミンツバーグの企業家論

"THE NATURE OF MANAGERIAL WORK" (1973)

interpersonal

- figurehead
- leader
- liaison

informational

- monitor
- disseminator
- spokesperson

decisional

- entrepreneur
- disturbance handler
- resource allocator
- negotiator

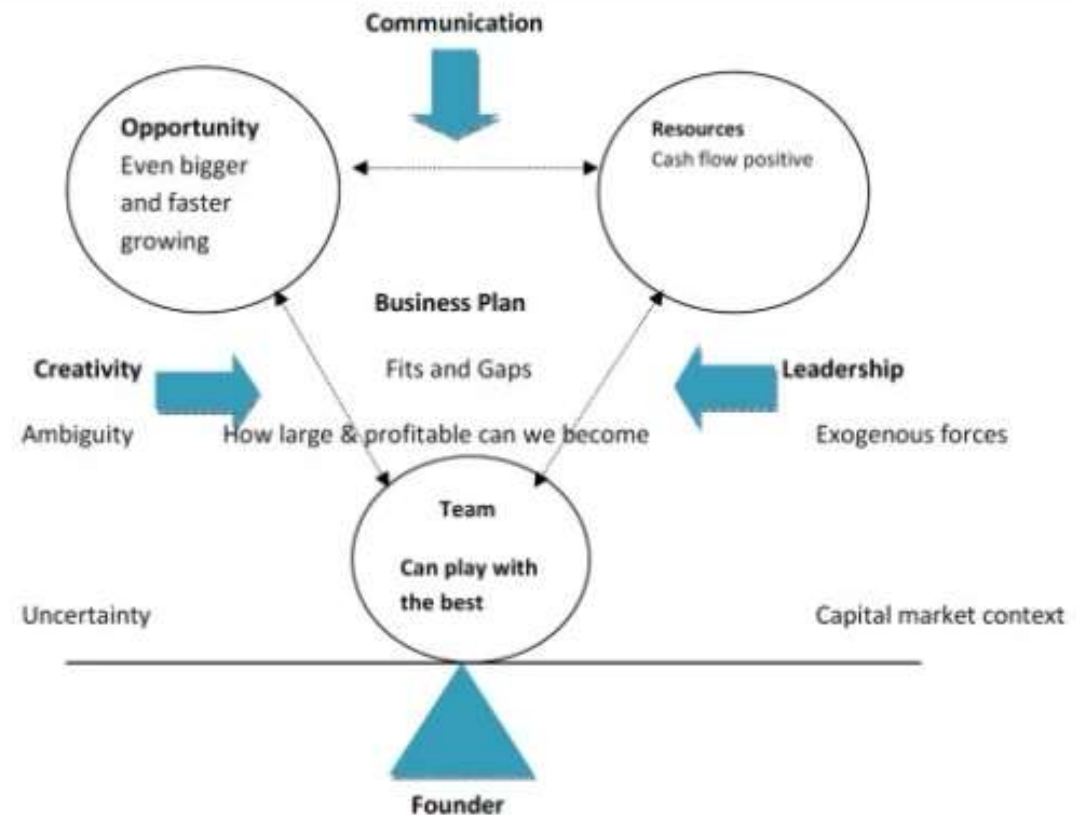
- 起業家的なやり方において戦略策定は、新しい機会を積極的に追及する。
- 起業家の役割では、マネージャーがビジネスプロセスを組織し、実行。
- マネージャーの企業家的役割は、新しいアイデアや戦略を開発して実行
- 新製品やプロセスを採用したり、組織構造を変更したりする

起業論と起業プロセス

THE TIMMONS MODEL OF ENTREPRENEURIAL PROCESS

- 起業することにフォーカスをあてた研究をおこない、新規事業を開業するという意味で実践的に起業家を輩出することを目的とした米国バブソン大学などを中心に議論されているのが起業論というカテゴリーである。
- 「起業のチャンスをつえ、そのチャンスを実現しうる組織を作り出す人である。起業へのプロセスとは、チャンスを見だし、チャンスを実現するために組織を作り出すことにかかわるありとあらゆる機能、活動すべてを含むものである」バイグレイブ(2009)は
- シュンペーターよりも、より広く起業家を定義する。我々は、新しく事業を始める人はすべて起業家と捉えることにする。」として起業家の革新の度合いについてはシュンペーターよりも低くとらえ、すべての新規開業者(個人)を「起業家」としている。

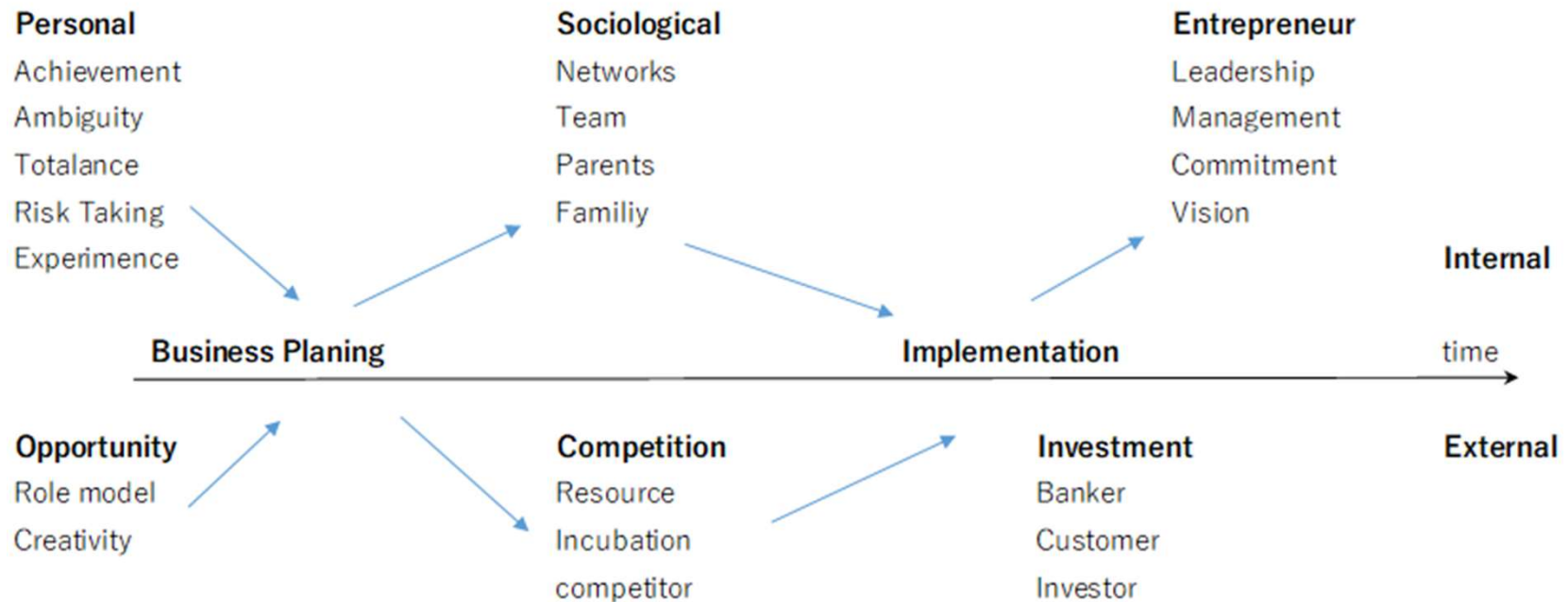
The Timmons model of Entrepreneurial Process



起業論と起業プロセス

バイグレイブ(2003)のプロセスモデル

A model of Entrepreneurship process 起業家のプロセスモデル

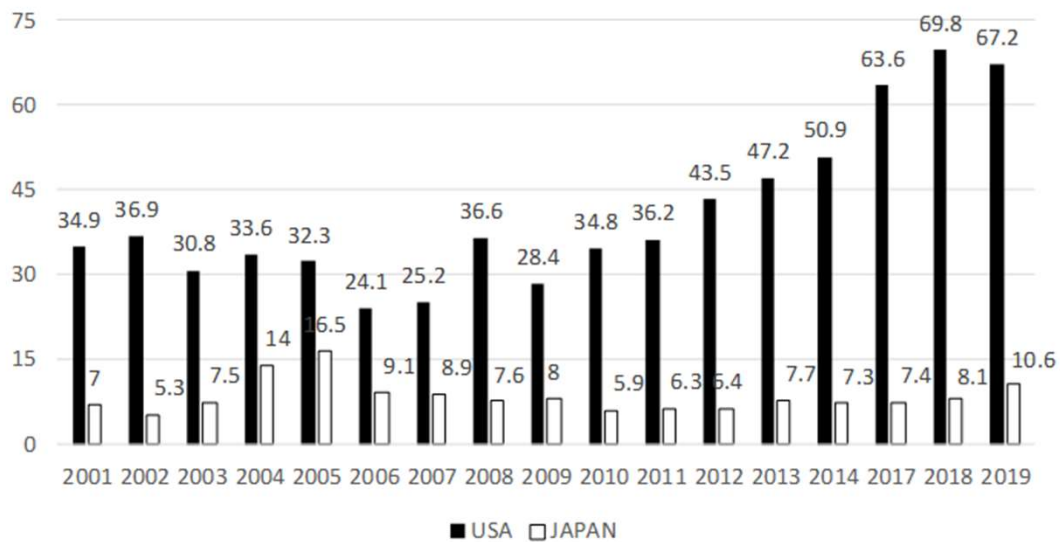


GLOBAL ENTREPRENEURSHIP MONITOR

GEMの起業家分析

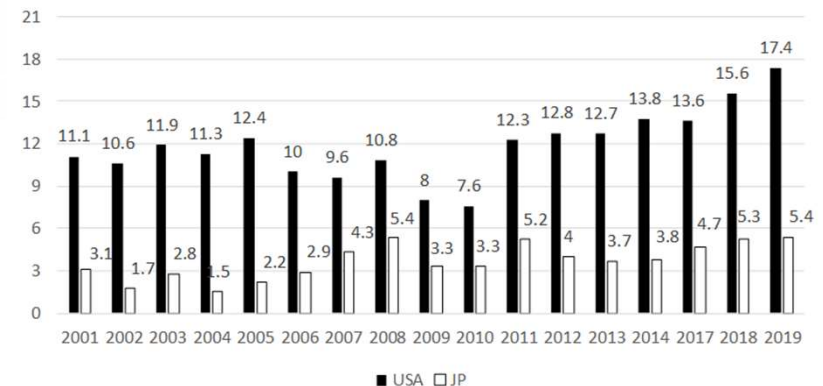
OPPORTUNITY

Percieved Opportunity 起業家の事業機会 (%) ※



NASANT ENTREPRENEURS

Entrepreneurship on the early stage
アーリーステージの 起業家の就労人口に占める割合 (%) ※



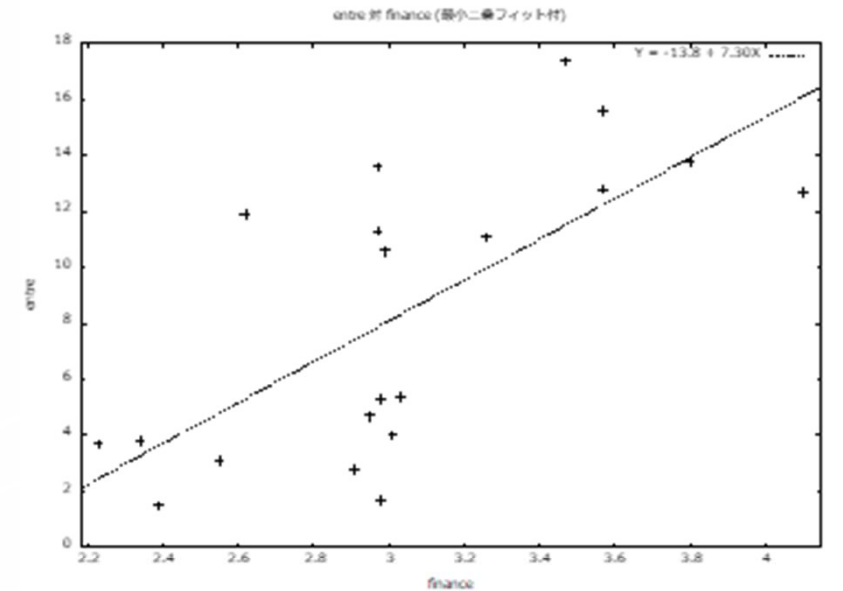
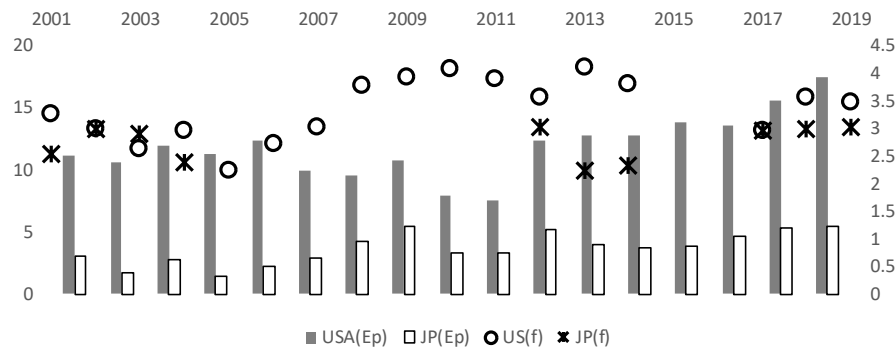
EASE OF FINANCE GEMの起業家研究

初期の起業家の発生要件についての研究

Entrepreneurship on the early stage アーリーステージの起業家 (左軸%)

Ease of Finance 負債・株式の調達可能性 (右軸%)

パネルデータ (観測: 2001-2019年)



Model 2: Pooled OLS, 観測数 20

クロスセクションユニット数 2

時系列の長さ= 10

従属変数: entre

	係数	標準誤差	t 値	p 値
Const(切片)	-13.8108	5.54253	-2.492	0.0227 **
Finance(x)	7.29956	1.80446	4.045	0.0008 ***

$$Entre_{1,2,\dots} = Finance_{(1,2,\dots)} - e$$

決定係数(R^2) 0.476 決定係数(補正) 0.447
***信頼区間 99%

起業家個人の特性からエコシステムへ

E. STAM(2015) STAM AND VEN (2021)

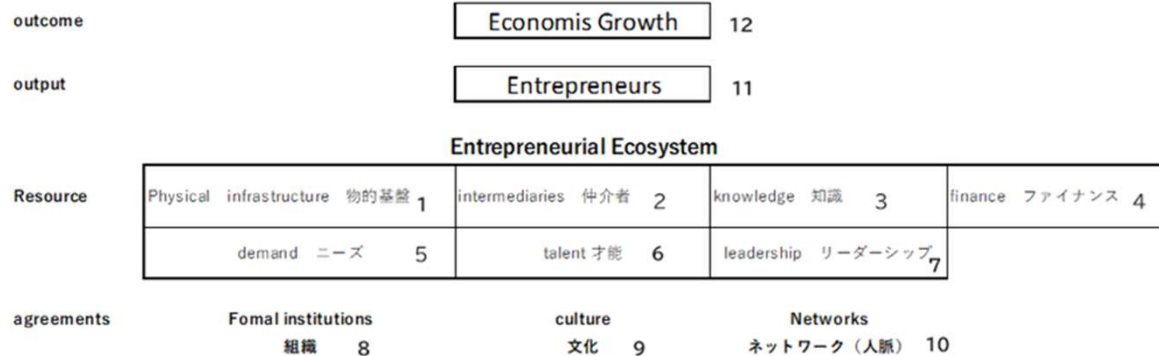
Key factors	Entrepreneurial Ecosystem (EE)	Startup Ecosystem (SE)
定義	地域の条件やボトムアップ・プロセスを正確に理解し、起業家精神の土壌を形成、サービス、生産のイノベーションを促進するため、多様な文化的環境を考慮した地域ステークホルダーが一定の起業家的役割を果たす必要がある。（環境設計重視）	起業家、既存企業、大学、研究機関、金融機関、公的機関等の構成主体が共存共栄し、企業の創出、成長、成熟、再生の過程が循環する仕組み」を指し、米国のシリコンバレーを例に多様な構成主体が連携することでベンチャー創出の土壌が形成（制度設計重視）
求める成功事例	自営業・事業承継	ベンチャー企業・ハイテク産業
金融	プライベートエクイティ・地銀	VC・政策的補助金
方法論	regional sector 文化的・地域的	political sector 国家政策的・制度的
目標	地域経済の維持・持続的発展	ハイテク産業・イノベーションの促進

シリコンバレーの模倣は終わりの時代へ アントレプレヌール・エコシステム(E.E)の到来

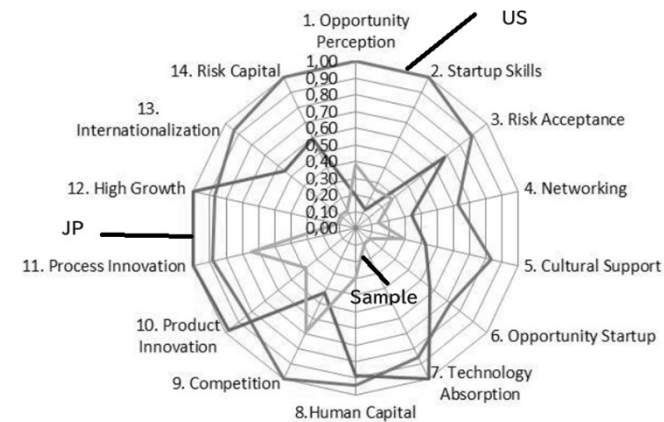
Spigel, B & Stam, E (2018) ”1.Stop emulating Silicon Valley ”

Entrepreneurial Ecosystem

A set of interconnected entrepreneurial actors, entrepreneurial organizations, institutions and entrepreneurial processes which formally and informally coalesce to connect, mediate and govern the performance within the local entrepreneurial environment” 「相互に関連した一連の起業家的主体、起業家的組織、機関、および起業家的プロセスが、公式および非公式に結合して、地域の起業家的環境内でのパフォーマンスを結び付けるガバナンス」である（筆者訳）Mason & Brown (2014)



Global Entrepreneurship Index (GEI)



REFERENCE

1. 亀川雅人、栗屋仁美、北見幸一[2020]『市場とイノベーションの企業論』中央経済社
2. 亀川雅人[2009]「経営環境の国際比較と企業家精神」『立教ビジネスレビュー』第2号 <特集>21世紀の重要な国際経営論の研究課題(研究分野)は何か)
3. 馬場晋一 [2016],「企業家の資金需要と金融アクセス—創業時のリスクを支える融資および出資の試論を中心として—」『経営学論集第88集』PP.F6-1-F6-7
4. DAVID BURNETT[2000] "THE SUPPLY OF ENTREPRENEURSHIP AND ECONOMIC DEVELOPMENT"
FOUNDER, TECHNOPRENEURIAL.COM ([HTTP://TECHNOPRENEURIAL.COM/ARTICLES/HISTORY.ASP](http://technopreneurial.com/articles/history.asp))
5. SPIGEL, B. [2017] "THE RELATIONAL ORGANIZATION OF ENTREPRENEURIAL ECOSYSTEMS." ENTREPRENEURSHIP
THEORY AND PRACTICE 41, PP.49-72
6. SPIGEL, B.& STAM, E. [2018], "EXPLORER, ENTREPRENEURIAL," EDINBURGH RESEARCH
7. STAM, E. [2015], "ENTREPRENEURIAL ECOSYSTEMS AND REGIONAL POLICY: A SYMPATHETIC, CRITIQUE"
8. STAM, E. & ANDREW VAN DE VEN. [2021], "ENTREPRENEURIAL ECOSYSTEM ELEMENTS", SMALL BUSINESS ECONOMICS
9. AN ENTREPRENEURSHIP JOURNAL
10. BYGRAVE, W.D. (2009). "ENTREPRENEURSHIP" 高橋 徳行, 田代 泰久, 鈴木 正明訳(2009)『アントレプレナーシップ』日経BP社.
11. DAVID A. HARPER, (2004). "FOUNDATIONS OF ENTREPRENEURSHIP". SSRN 983191. AVAILABLE